

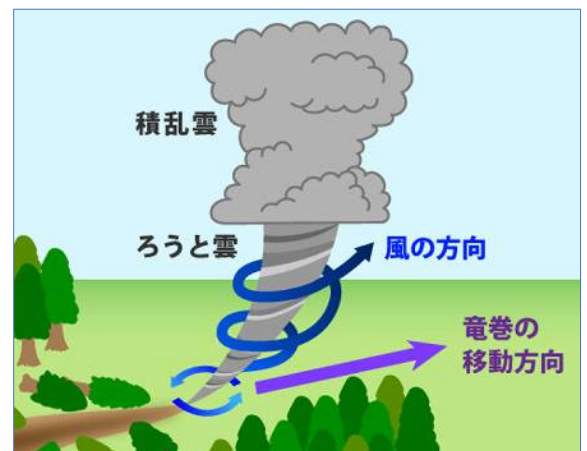
竜巻被害に遭わないために

9月5日、静岡県牧之原市に台風15号接近に伴う影響で、風速75mの国内最大級の竜巻が発生し、建物の全壊・半壊、車の横転（死亡）、樹木がなぎ倒されるなどの甚大な被害が発生しました。また、窓から入り込んだ風圧で人間が舞い上がり外に放り出された事例もありました。

普段遭遇しない竜巻のしくみと竜巻から身を守る対策についてご紹介します。

竜巻のしくみは？

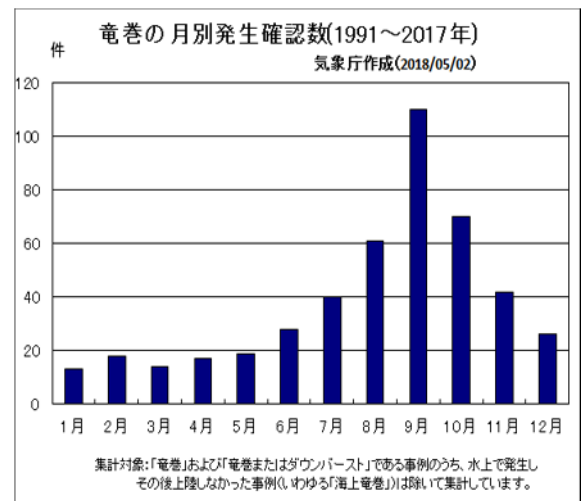
積乱雲に伴う強い上昇気流により発生する激しい渦巻きで、ろうと状または柱状の雲を伴い、中心部分の風は毎秒75mに達することもあり、建物などを破壊します。



いつ発生するの？

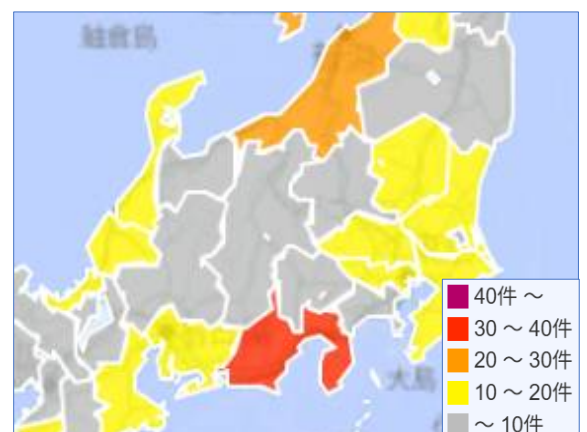
日本の竜巻は、台風や寒冷前線、低気圧などに伴って季節を問わず発生しています。特に、積乱雲が発達しやすい夏から秋にかけて、発生確認数が多くなっています。

過去のデータでは9月に多く発生しています。



どこで多く発生しているの？

都道府県別(1991～2025)では、竜巻は秋田県、高知県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県で発生確認数が多くなっています。全体的な傾向としては、東北地方の日本海側から北陸にかけて、関東地方から九州の太平洋側、沖縄で発生確認数が多く、東北地方の太平洋側と瀬戸内海沿岸で少なくなっています。



竜巻が来たらどうすればいいの？

竜巻は突然発生しますので、予兆を感じたら**身を守るための行動**をとりましょう！

屋内にいる場合	屋外にいる場合
①雨戸、シャッター、窓、カーテンを閉める。 ②窓から離れ、建物の1階（最下階）や家の中央に近い窓のない部屋（トイシ、風呂場等）に移動する。 ③丈夫な机やテーブルの下に入るなど、身を小さくして頭と首を守る。 ④物置や車庫、プレハブは倒壊の危険があるため避難場所にはしない。	①近くの頑丈な建物に避難する。 避難できる建物がない場合は、近くの側溝や窪みに身を伏せ、両腕で頭と首を守る。 ②電柱や太い樹木は倒れる危険性があるため近づかない。 ③車庫や物置、プレハブには避難しない。 ④飛来物に注意し、頑丈な構造物の物陰に入って身を小さくする。 ⑤車を運転している場合は、交通の邪魔にならない場所に車を止め、頑丈な建物に避難する。

